

## 届出書の記載例

### ① 伐採方法が皆伐であって、伐採後の造林の計画が人工造林の場合

#### 伐採及び伐採後の造林の届出書

平成24年10月1日

〇〇市長 殿

住所 〇〇市〇〇町1-2-3

届出人 氏名 森林 太郎

伐採の始期の30~90日前であり、適正。

次のとおり森林の立木を伐採したいので、森林法第10条の8第1項の規定により届け出ます。

#### 1 森林の所在場所

〇〇市 △△町 大字〇〇 字△△ 地番1234-1番地, 1234-2番地  
 [ 〇〇〇林班 △△小班 施業番号 10、11イ、11ロ ]

伐採箇所が複数地番にまたがる場合は該当する地番を全て記載する。

#### 2 伐採の計画

全ての地番の合計面積を記載する。

伐採範囲を記載した森林計画図を添付する。

伐採面積	2.00ha		
伐採方法	(主伐) (皆伐) 択伐)・間伐	伐採率	100%
伐採樹種	スギ		
伐採齢	50		
伐採の期間	平成24年11月15日～平成25年3月15日		

#### 3 伐採後の造林の計画

主伐に係る伐採面積と一致しており、適正。

##### (1) 造林の方法別の造林面積等の計画

造林面積 (A + B + C + D)	2.00ha
人工造林による面積 (A + B)	2.00ha
植栽による面積 (A)	2.00ha
人工播種による面積 (B)	— ha
天然更新による面積 (C + D)	— ha
ぼう芽更新による面積 (C)	— ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他 ( )・なし
天然下種更新による面積 (D)	— ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他 ( )・なし

(2) 造林の方法別の造林の計画

	造林の期間	造林樹種	樹種別の造林面積	樹種別の植栽本数
人工造林 (植栽・人工播種)	平成25年4月1日～ 平成25年5月31日	ヒノキ	1.00ha	3,000本
		スギ	1.00ha	3,000本
天然更新 (ぼう芽更新・天然下種更新)	—	伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して2年以内となっているため、適正。		
5年後において適確な更新がなされない場合	—	—	—	—

(3) 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途

—

4 備考

〇〇国立公園普通地域  
適合通知書等の希望の有無 (有・無)

森林法以外の法令により施業の制限がある場合は、予め関係機関に確認の上、その種別等を記載する。

希望する場合は記載する。

注意事項

- 伐採する森林の所在する市町村ごとに提出すること。
- 伐採をする者と伐採後の造林をする者が異なり、これらの者が共同して提出する場合にあつては、当該伐採をする者と当該伐採後の造林をする者が連名で提出すること。
- 森林の所在場所ごとに記載すること。
- 面積は、小数第2位まで記載し、第3位を四捨五入すること。
- 樹種は、すぎ、ひのき、まつ（あかまつ及びびくろまつをいう。）、からまつ、えぞまつとどまつその他の針葉樹及びぶな、くぬぎその他の広葉樹の別に区分して記載すること。
- 伐採方法欄には、皆伐、択伐又は間伐の別を記載し、伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。
- 伐採年齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(○～○)」のように記載すること。
- 伐採の期間が1年を超える場合においては、2の伐採の計画を年次別に記載すること。
- 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するよう記載すること。
- 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において植栽によらなければ適確な更新が困難な森林として定められている伐採跡地の面積を下回らないよう記載すること。
- 天然更新補助作業の有無欄には、当該作業を行う場合には、地表処理、刈出し、植込みなどの作業の種類を記載すること。
- 造林樹種欄及び樹種別の造林面積欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 樹種別の植栽本数欄には、植栽する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 5年後において適確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合（伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であつて、伐採の終了した日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。）における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の植栽本数を記載すること。
- 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供されることとなる場合のみ記載すること。

② 伐採方法が皆伐であって、伐採後の造林の計画が天然更新の場合

伐採及び伐採後の造林の届出書

平成24年9月15日

伐採の始期の30~90日前であり、適正。

〇〇市長 殿

伐採する者と伐採後の造林をする者が異なる場合は、連名で届け出る。

住所 〇〇市△△町字□□123  
 届出人 氏名 〇〇林業 代表取締役 林野次郎 (伐採する者(立木を買い受けて伐採する者等))  
 住所 〇〇市〇〇町1-2-3  
 届出人 氏名 森林 太郎 (伐採後の造林をする者(森林所有者))

次のとおり森林の立木を伐採したいので、森林法第10条の8第1項の規定により届け出ます。

1 森林の所在場所

〇〇市 △△町 大字〇〇 字△△ 地番1234-1番地, 1234-2番地  
 { 〇〇〇林班 △△小班 施業番号 10、11イ、11ロ }  
 伐採箇所が複数地番にまたがる場合は該当する地番を全て記載する。  
 伐採範囲を記載した森林計画図を添付する。

2 伐採の計画

伐採面積	3.30ha (うち平成24年度2.20ha, 平成25年度1.10ha)		
伐採方法	(主伐) (皆伐)・択伐	間伐	伐採率 100%
伐採樹種	クヌギ、その他広葉樹		
伐採齢	45 (35~50)		
伐採の期間	平成24年11月1日~平成25年12月31日		

全ての地番の合計面積を記載する。  
 伐採の期間が1年を超える場合は、年次別に記載する。

3 伐採後の造林の計画

主伐に係る伐採面積と一致しており適正。

(1) 造林の方法別の造林面積等の計画

造林面積 (A+B+C+D)	3.30ha
人工造林による面積 (A+B)	— ha
植栽による面積 (A)	— ha
人工播種による面積 (B)	— ha
天然更新による面積 (C+D)	3.30ha
ぼう芽更新による面積 (C)	2.20ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・ <u>その他</u> (芽かき)・なし
天然下種更新による面積 (D)	1.10ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・ <u>刈出し</u> ・ <u>植込み</u> ・その他( )・なし

天然更新すべき立木の本数に面積を乗じて得た本数を記載する。  
 (例) 3,000本/ha×3.30ha = 9,900本  
 5年後において適確な更新が完了していない場合は、当該本数に足らざる本数を植栽することとなる。

5年後の天然更新の完了の見込みに関係なく天然更新を計画する全面積を記載する。

(2) 造林の方法別の造林の計画

	造林の期間	造林樹種	樹種別の造林面積	樹種別の植栽本数
人工造林 (植栽・人工播種)	—	—	— ha	— 本
天然更新 (ぼう芽更新・天然下種更新)	平成26年4月1日～ 平成31年3月31日	クヌギ	2.20ha	
		その他広葉樹	1.10ha	
5年後において適確な更新がなされない場合	平成31年4月1日～ 平成32年3月31日	その他広葉樹	3.30ha	9,900本

伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して7年を超えない期間となっており、かつ植栽が計画されているため、適正。

伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して5年を超えない期間となっているため、適正。

(3) 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途

—

希望する場合は「有」に○をする。

4 備考

適合通知書等の希望の有無 (有・)

注意事項

- 伐採する森林の所在する市町村ごとに提出すること。
- 伐採をする者と伐採後の造林をする者が異なり、これらの者が共同して提出する場合にあつては、当該伐採をする者と当該伐採後の造林をする者が連名で提出すること。
- 
- 森林の所在場所ごとに記載すること。
- 面積は、小数第2位まで記載し、第3位を四捨五入すること。
- 樹種は、すぎ、ひのき、まつ(あかまつ及びびくろまつをいう。)、からまつ、えぞまつとどまつその他の針葉樹及びびぶな、くぬぎその他の広葉樹の別に区分して記載すること。
- 伐採方法欄には、皆伐、択伐又は間伐の別を記載し、伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。
- 伐採年齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(○～○)」のように記載すること。
- 伐採の期間が1年を超える場合においては、2の伐採の計画を年次別に記載すること。
- 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するよう記載すること。
- 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において植栽によらなければ適確な更新が困難な森林として定められている伐採跡地の面積を下回らないよう記載すること。
- 天然更新補助作業の有無欄には、当該作業を行う場合には、地表処理、刈出し、植込みなどの作業の種類を記載すること。
- 造林樹種欄及び樹種別の造林面積欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 樹種別の植栽本数欄には、植栽する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 5年後において適確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合(伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であつて、伐採の終了した日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。)における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の植栽本数を記載すること。
- 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供されることとなる場合にのみ記載すること。

### ③ 伐採方法が択伐の場合

#### 伐採及び伐採後の造林の届出書

〇〇市長 殿

平成24年10月 1 日

住 所 〇〇市〇〇町1-2-3  
届出人 氏名 森林 太郎

伐採の始期の 30~90 日前  
であり、適正。

次のとおり森林の立木を伐採したいので、森林法第10条の8第1項の規定により届け出ます。

1 森林の所在場所

〇〇市 △△町 大字〇〇 字△△ 地番1234-1番地, 1234-2番地  
{ 〇〇〇林班 △△小班 施業番号 10、11イ、11ロ }

伐採箇所が複数地番にまたがる場合は該当する地番を全て記載する。

伐採範囲を記載した森林計画図を添付する。

2 伐採の計画

伐採面積	2.00ha		
伐採方法	(主伐) (皆伐・ <u>択伐</u> ) ・間伐	伐採率	40%
伐採樹種	ヒノキ		
伐採年齢	60		
伐採の期間	平成24年11月1日～平成25年3月15日		

全ての地番の合計面積を記載する。

市町村森林整備計画に定める立木の伐採(主伐(択伐))の標準的な方法に照らして適正な伐採率となっているか?

3 伐採後の造林の計画

(1) 造林の方法別の造林面積等の計画

主伐に係る伐採面積と一致しており適正。

造林面積 (A + B + C + D)	2.00ha
人工造林による面積 (A + B)	2.00ha
植栽による面積 (A)	2.00ha
人工播種による面積 (B)	— ha
天然更新による面積 (C + D)	— ha
ぼう芽更新による面積 (C)	— ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他 ( 芽かき ) ・なし
天然下種更新による面積 (D)	— ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他 ( ) ・なし

(2) 造林の方法別の造林の計画

	造林の期間	造林樹種	樹種別の造林面積	樹種別の植栽本数
人工造林 (植栽・人工播種)	平成25年4月1日～ 平成25年5月31日	ヒノキ	2.00ha	1,500本
天然更新 (ぼう芽更新・天然下種更新)	—			
5年後において適確な更新 がなされない場合	—	—	— ha	— 本

伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して5年以内となっているため、適正。

(3) 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途

—

希望する場合は記載する。

4 備考

適合通知書等の希望の有無 (  有 ・ 無 )

注意事項

- 伐採する森林の所在する市町村ごとに提出すること。
- 伐採をする者と伐採後の造林をする者が異なり、これらの者が共同して提出する場合にあつては、当該伐採をする者と当該伐採後の造林をする者が連名で提出すること。
- 氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。
- 森林の所在場所ごとに記載すること。
- 面積は、小数第2位まで記載し、第3位を四捨五入すること。
- 樹種は、すぎ、ひのき、まつ（あかまつ及びびくろまつをいう。）、からまつ、えぞまつとどまつその他の針葉樹及びぶな、くぬぎその他の広葉樹の別に区分して記載すること。
- 伐採方法欄には、皆伐、択伐又は間伐の別を記載し、伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。
- 伐採年齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(○～○)」のように記載すること。
- 伐採の期間が1年を超える場合においては、2の伐採の計画を年次別に記載すること。
- 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するよう記載すること。
- 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において植栽によらなければ適確な更新が困難な森林として定められている伐採跡地の面積を下回らないよう記載すること。
- 天然更新補助作業の有無欄には、当該作業を行う場合には、地表処理、刈出し、植込みなどの作業の種類を記載すること。
- 造林樹種欄及び樹種別の造林面積欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 樹種別の植栽本数欄には、植栽する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 5年後において適確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合（伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であつて、伐採の終了した日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。）における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の植栽本数を記載すること。
- 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供されることとなる場合にのみ記載すること。

## ④ 伐採方法が間伐の場合

### 伐採及び伐採後の造林の届出書

平成24年10月 1 日

〇〇市長 殿

住所 〇〇市〇〇町1-2-3  
届出人 氏名 森林 太郎

伐採の始期の30~90日前であり、適正。

次のとおり森林の立木を伐採したいので、森林法第10条の8第1項の規定により届け出ます。

1 森林の所在場所

〇〇市 △△町 大字〇〇 字△△ 地番1234-1番地, 1234-2番地  
{ 〇〇〇林班 △△小班 施業番号 10、11イ、11ロ }

伐採箇所が複数地番にまたがる場合は該当する地番を全て記載する。

伐採範囲を記載した森林計画図を添付する。

2 伐採の計画

伐採面積	2.00ha		
伐採方法	主伐(皆伐・択伐)・ <u>間伐</u>	伐採率	30%
伐採樹種	ヒノキ		
伐採齢	35		
伐採の期間	平成24年11月15日～平成25年3月15日		

全ての地番の合計面積を記載する。

伐採齢及び市町村森林整備計画に定める間伐の標準的な方法に照らして適正な伐採率となっているか？  
(伐採後の造林が必要となるような、過大な伐採率となっていないことを確認)

3 伐採後の造林の計画

(1) 造林の方法別の造林面積等の計画

造林面積 (A + B + C + D)	— ha
人工造林による面積 (A + B)	— ha
植栽による面積 (A)	— ha
人工播種による面積 (B)	— ha
天然更新による面積 (C + D)	— ha
ぼう芽更新による面積 (C)	— ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他 ( )・なし
天然下種更新による面積 (D)	— ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他 ( )・なし

間伐は更新を伴わない伐採であるため、伐採後の造林の計画は不要。

間伐は更新を伴わない伐採であるため、伐採後の造林の計画は不要。

(2) 造林の方法別の造林の計画

	造林の期間	造林樹種	樹種別の造林面積	樹種別の植栽本数
人工造林 (植栽・人工播種)	—	—	— ha	— 本
天然更新 (ぼう芽更新・天然下種更新)	—	—	—	/
5年後において適確な更新がなされない場合	—	—	—	—

(3) 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途

—

希望する場合は記載する。

4 備考

適合通知書等の希望の有無 (有・無)

注意事項

- 伐採する森林の所在する市町村ごとに提出すること。
- 伐採をする者と伐採後の造林をする者が異なり、これらの者が共同して提出する場合にあつては、当該伐採をする者と当該伐採後の造林をする者が連名で提出すること。
- 氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。
- 森林の所在場所ごとに記載すること。
- 面積は、小数第2位まで記載し、第3位を四捨五入すること。
- 樹種は、すぎ、ひのき、まつ(あかまつ及びびくろまつをいう。)、からまつ、えぞまつとどまつその他の針葉樹及びぶな、くぬぎその他の広葉樹の別に区分して記載すること。
- 伐採方法欄には、皆伐、択伐又は間伐の別を記載し、伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。
- 伐採年齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(○～○)」のように記載すること。
- 伐採の期間が1年を超える場合においては、2の伐採の計画を年次別に記載すること。
- 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するよう記載すること。
- 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において植栽によらなければ適確な更新が困難な森林として定められている伐採跡地の面積を下回らないよう記載すること。
- 天然更新補助作業の有無欄には、当該作業を行う場合には、地表処理、刈出し、植込みなどの作業の種類を記載すること。
- 造林樹種欄及び樹種別の造林面積欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 樹種別の植栽本数欄には、植栽する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 5年後において適確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合(伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であつて、伐採の終了した日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。)における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の植栽本数を記載すること。
- 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供されることとなる場合にのみ記載すること。



⑤ 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合

伐採及び伐採後の造林の届出書

平成24年10月1日

〇〇市長 殿

住所 〇〇市〇〇町1-2-3  
届出人 氏名 森林 太郎

伐採の始期の30~90日前であり、適正。

次のとおり森林の立木を伐採したいので、森林法第10条の8第1項の規定により届け出ます。

1 森林の所在場所

〇〇市 △△町 大字〇〇 字△△ 地番1234-1番地  
{ 〇〇〇林班 △△小班 施業番号 10 }

伐採範囲を記載した森林計画図を添付する。

伐採面積が1ha以下であり、適正。

2 伐採の計画

伐採面積	0.50ha		
伐採方法	(主伐) (皆伐)・択伐	伐採率	100%
伐採樹種	スギ		
伐採齢	60		
伐採の期間	平成24年11月15日～平成25年3月31日		

3 伐採後の造林の計画

(1) 造林の方法別の造林面積等の計画

造林面積 (A + B + C + D)	—	ha
人工造林による面積 (A + B)	—	ha
植栽による面積 (A)	—	ha
人工播種による面積 (B)	—	ha
天然更新による面積 (C + D)	—	ha
ぼう芽更新による面積 (C)	—	ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他 ( )・なし	
天然下種更新による面積 (D)	—	ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他 ( )・なし	

伐採後において森林以外の用途に供されることとなるため、伐採後の造林の計画は不要。

(2) 造林の方法別の造林の計画

伐採後において森林以外の用途に供されることとなるため、「5年後において適確な更新がなされない場合」欄以外は記載不要。

	造林の期間	造林樹種	樹種別の造林面積	樹種別の植栽本数
人工造林 (植栽・人工播種)	—	—	— ha	— 本
天然更新 (ぼう芽更新・天然下種更新)	—	—	—	
5年後において適確な更新がなされない場合	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	スギ	0.50ha	1,500本

(3) 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途

宅地造成
------

伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して5年を経過した日において(3)の用途に供されていない場合には、その時点から2年以内に森林に復旧する旨の造林の計画を記載する。(ただし、5年以内に転用した場合は、造林の計画の履行は要しない。)

4 備考

森林以外の用途への転用の場合は確認通知書を発出する。

適合通知書等の希望の有無 ((有)・無)

注意事項

- 伐採する森林の所在する市町村ごとに提出すること。
- 伐採をする者と伐採後の造林をする者が異なり、これらの者が共同して提出する場合にあつては、当該伐採をする者と当該伐採後の造林をする者が連名で提出すること。
- 氏名を自署する場合には、押印を省略することができる。
- 森林の所在場所ごとに記載すること。
- 面積は、小数第2位まで記載し、第3位を四捨五入すること。
- 樹種は、すぎ、ひのき、まつ(あかまつ及びびくろまつをいう。)、からまつ、えぞまつとどまつその他の針葉樹及びぶな、くぬぎその他の広葉樹の別に区分して記載すること。
- 伐採方法欄には、皆伐、択伐又は間伐の別を記載し、伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。
- 伐採年齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(○～○)」のように記載すること。
- 伐採の期間が1年を超える場合においては、2の伐採の計画を年次別に記載すること。
- 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するよう記載すること。
- 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において植栽によらなければ適確な更新が困難な森林として定められている伐採跡地の面積を下回らないよう記載すること。
- 天然更新補助作業の有無欄には、当該作業を行う場合には、地表処理、刈出し、植込みなどの作業の種類を記載すること。
- 造林樹種欄及び樹種別の造林面積欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 樹種別の植栽本数欄には、植栽する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 5年後において適確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合(伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であつて、伐採の終了した日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。)における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の植栽本数を記載すること。
- 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供されることとなる場合にのみ記載すること。